

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2375300213
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会
事業所名	グループホーム 扶桑苑
所在地	丹羽郡扶桑町大字山那字番所下83-5 (電話) 0587-92-1600

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年4月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,500 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	160 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		860 円	

(4) 利用者の概要(平成19年4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護 1	4名	要介護 2	4名			
要介護 3	1名	要介護 4	0名			
要介護 5	0名	要支援 2	0名			
年齢	平均	85.6 歳	最低	75 歳	最高	97 歳
協力医療機関名	医療法人医仁会 さくら病院					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田畑や木々、花に囲まれ、近くには木曾川が流れる自然豊かな環境の中にある。敷地内には桜の木があり、春はウッドデッキで家族と共に花見の会が催される。敷地内には、特別養護老人ホームやデイサービスセンター、ショートステイが併設されており、緊急時は併設施設の協力が得られる体制である。地域の協力医による往診が月2回あり、24時間対応可能となっているため、家族の安心につながっている。職員は出勤時に利用者一人ひとりと挨拶を交わしている。利用者にはできることから行ってもらい、“できない”ではなく“できるかもしれない”を大切に、感謝の気持ちを忘れず言葉で表現するように努めている。職員がゆったり、ゆっくりと支援できるように業務改善を行い、利用者との関わりの時間を大切にしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題として理念の掲示についてあげられており、掲示方法を変え見やすいよう工夫をした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者から自己評価について職員に説明し、職員一人ひとりが取り組み、会議の場で皆で話し合い評価を取りまとめた。「自己評価を行う事で、自分達の勉強にもなり、去年より今年の方が話し合いができ、反省や自信にもつながった」との声も聞かれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーは、地域社会福祉法人、役場職員、包括介護支援センター職員、地域区長、家族代表となっており、積極的に参加を呼びかけた。7月に第1回目を開催し、会議では議題をたてホームから説明したりメンバーから意見を出してもらい、活発に討議している。会議録は利用者、家族全員に配布している。利用者や職員の会議への参加も視野に入れながら、会議を通じてサービスの質の向上に向け、さらなる取り組みに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	併設している特別養護老人ホームに意見箱を設置しているが、家族は来訪時に直接、担当職員に話をしている。担当者は管理者に報告し、他の職員も交え話し合い、結果を家族に報告している。また、苦情相談機関としてホームの担当者以外にも市町村及び愛知福祉オンズマンの連絡先も重要事項説明書に明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、町の新聞や広報誌等が配布されている。町の作品展には毎年出展しており、終了後に作品を近隣のこども達にプレゼントしている。毎週日曜日には朝市があり、近隣の方と挨拶を交わし、ホームに気軽に立ち寄りもらえるよう声かけを行っている。ヤクルトやパンの訪問販売員の方をお願いして立ち寄りてもらっている。小学校、中学校のボランティアの受入れもしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と利用者との関わりの中で、こちら（職員）が穏やかでなければ利用者も穏やかになれない、また、本当に笑って過ごして頂きたいとの思いから理念がつけられた。		地域密着型サービスとしての役割を理解しており、地域との関わりも積極的に取り組んでいる。現在、理念を見直しており、進捗に期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者と職員が話し合いをして理念の掲示方法を変えた。利用者の顔写真の下に、一人ひとりが今何をしたいかの言葉を書き、理念を囲うようにそれらが貼られ、額に入れ掲示している。また、ホームを家と考え、フェルトで家をかたどりその中に理念が書かれていた。日常生活の中で“原点でその人らしく”を考え日々のケアに心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町の新聞や広報誌等が配布されている。町の作品展には毎年出展しており、終了後に作品を近隣の子ども達にプレゼントしている。毎週日曜日には朝市があり、近隣の方と挨拶を交わし、ホームに気軽に立ち寄ってもらうよう声かけを行っている。ヤクルトやパンの訪問販売員の方をお願いして立ち寄ってもらっている。小学校、中学校のボランティアの受入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善として、理念の掲示について、掲示方法を変え見やすいよう工夫した。管理者から自己評価について職員に説明し、職員一人ひとりが取り組み、会議の場で皆で話し合い評価を取りまとめた。「自己評価を行う事で、自分達の勉強にもなり、去年より今年の方が話し合いができ、反省や自信にもつながった」との声も聞かれた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは、地域社会福祉法人、役場職員、包括介護支援センター職員、地域区長、家族代表となっており、積極的に参加を呼びかけた。7月に第1回目を開催し、会議では議題をたてホームから説明したり、メンバーから意見を出してもらい、活発に討議している。会議録は利用者、家族全員に配布している。</p>		<p>7月に第1回目の運営推進会議には、幅広いメンバーが参加し、活発に意見交換がされている。利用者や職員の会議への参加も視野に入れながら、会議を通じてサービスの質の向上に向け、さらなる取り組みに期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は町の福祉推進委員等になっている。会議には市や町の職員の参加があり、その際に相談したり情報提供などを行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、声をかけ利用者の現状や状況を説明している。出納帳についても報告している。毎月発行される利用者個人の新聞には、季節により題名が付けられる。(9月は大きい秋見つけたよ新聞)担当職員が利用者の様子をコメントで書き、行事予定や本人の写真が掲載されており、請求書と共に家族に送付している。利用者の心身等に変化があった場合は、必要に応じて家族に連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>併設している特別養護老人ホームに意見箱を設置しているが、家族は来訪時に直接、担当職員に話をしている。担当者は管理者に報告し、他の職員も交え話し合い、結果を家族に報告している。また、苦情相談機関としてホームの担当者以外にも市町村及び愛知福祉オンズマンの連絡先も重要事項説明書に明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動はないが、職員の希望があれば併設施設へ異動することがある。業務改善を行い、利用者と関わる時間を見直すことにより、ゆっくり、リラックスできる時間ができた。休憩室にはベットが置かれ、職員が休憩時間に足をのばし休む事ができる。年1回、職員旅行や忘年会等を開催しており、職員のストレス軽減に向けた取り組みがされている。離職者も少なく、職員の半数が常勤という体制をとっている。休憩時間も1時間確保している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホームより外部研修の情報が提供されており、職員は交代で参加している。参加した職員は資料をホームに持ち帰り、ミーティングで報告している。併設の特別養護老人ホームと合同で3～4カ月に1回、勉強会を開催している。また、ホーム内でも定期的ではないが会議の時に勉強会を実施している。法人としても研修機会を設けており、今後、さらにステップアップを図っていきたいと、管理者は職員との個人面談を予定している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者があいち福祉ネットワークに参加しており、地域の同業者との情報交換を行っているが、交流までには至っていない。愛知県グループホーム協議会等に参加し、交流を進めたいと考えている。また、他施設の見学や情報収集も実施していきたいと考えている。</p>		<p>職員が同業者との交流の機会を通じて、情報交換やサービスの質の向上につながるよう今後の取り組みに期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に自宅や状況に応じて施設等に訪問し、面談を行いアセスメント表を作成している。事前に見学に来てもらったり、併設のデイサービスセンターを利用する等、ホームの雰囲気に馴染んでもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>“できない”ではなく“できるかもしれない”を大切に、試しに行ってもらいできる事から初め、職員は手を出さずに見守りを中心に支援している。お客様のお茶出し、食事の準備や片付け、裁縫、園芸など利用者の得意な事から始めている。して頂いた時には、「ありがとう」の感謝の気持ちを必ず言葉でかけるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で、言動や表情から本人の希望や要望を汲み取り支援するよう努めている。把握された情報は記録され職員全員で共有している。本人の希望により外出や買い物など、個別に対応している。訪問時には、気の合った利用者同士が廊下のソファに座り話しをしたり、ウッドデッキでお茶をしたりと思い思いに過ごされている様子が見られた。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者をよく観察することで、ケアのヒントを見つけ、職員全員で意見を出し合い、介護計画に結び付けている。職員全員が同じ方向を向いて、利用者のケアを行うことができるよう、常に話し合いを行っている。アセスメントについて、センター方式の一部を家族の協力のもと取り入れ、利用者の生活歴などを把握するのに活用している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者3名に対して、正職員、パート職員2～3人でチームを作り、介護計画を作成している。担当者を中心にアセスメントや情報収集を行っている。利用者に変化が生じた場合は、担当者が管理者に報告し、その都度、介護計画の見直しを行っている。介護計画は3カ月毎に見直しを行い、6カ月に1度更新のため家族や本人と話し合いが持たれている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算は受けていないが、地域の医療機関が24時間体制での対応を協力してくれている。特別養護老人ホームやデイサービスセンターが併設されており、互いに交流があり、馴染みの関係を築けるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医が月2回往診している。ホーム指定医の眼科、歯科、皮膚科の受診はホームで対応している。かかりつけ医の受診は家族が行っている。入居時に家族へ病院の希望を聞くが、ほとんどの家族がホーム指定医を希望している。家族との受診の連絡は密に行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルケアは行っていない。入居時に説明をしており、特別養護老人ホームと一緒に申し込む方もいる。入院が長期になる場合は、ご家族等の意見を聞き、しっかり話し合い対応している。</p>		<p>重度者や終末期の方を対応していないが、今後、急変時の対応や重度化に伴う支援の指針などを検討される事を期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報に関する書類は外部への持ち出し禁止を徹底している。不要の書類は必ずシュレッターで処理をしている。守秘義務についてはいつもミーティングで話題にあげ、確認している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者との日常会話の中から、利用者の希望を聞き取り、個々のペースに合わせた支援をしている。音楽療法など皆が楽しみにしている活動もあり、個別や全体で行うことを上手く組み合わせで支援している。食後の晩酌を毎日楽しんでいる利用者もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は野菜を切る、アルミ箔等を準備する、お茶を運ぶなど、それぞれの得意なことを役割として行っている。献立は利用者の意見を聞いたり、職員がいくつか提案し、選択してもらするなど、希望の取り入れ方を工夫している。食事は会話があり楽しい雰囲気であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則2日に1回だが、希望される方には、毎日対応している。入浴を嫌がられる方には、時間を決めず、タイミングや希望に合わせて支援したり、声かけの工夫などで対応している。それにより現在、入浴を拒否されることがなくなった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週に1回、支援日としてゆとりの日を作っている。その日は、グループや個人での外出など利用者は思い思いの1日を過ごしている。職員が利用者との会話や観察から楽しみやできる事を見つけ出し、役割や活動につなげる支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材や日用品の買物は必ず利用者と一緒にいくようにしている。外出者が偏らないように記録を付け、全員の方が外出できるように支援している。朝市や喫茶店の外出は定着してきており、馴染みの関係もでき利用者の楽しみになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵は施錠しておらず、利用者は自由に苑庭に入出入りできる。苑庭は広く十分な散歩スペースである。また、洗濯物の取り入れなど利用者が職員と一緒に日常的に玄関を出入りしている。訪問時にもその様子が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設している施設と合同で避難訓練を年2回実施している。その内1回は、消防署に協力してもらい、職員は消火器の取り扱いなどを指導してもらっている。今年は、火の元がグループホームという設定で訓練が行われた。職員は積極的に消防署の救急救命講習に参加している。		以前は、グループホーム独自の避難訓練も行っていたが現在は合同で実施している。今後は、利用者の参加や地域の人々の協力を得る働きかけに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は1,200~1,400kcalを目安に栄養バランスを考え立てており、併設施設の栄養士に相談やアドバイスをしてもらっている。水分摂取のチェックを行い、摂取量の少ない利用者には、こまめに水分を勧めたり、嗜好にあった物を用意することで摂取量を増やす努力をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が迷わずトイレに行けるよう、各居室の間にトイレが設置されてある。廊下の窓際にソファが設置されており、一人になれる場所も確保してある。リビングは明るく落ち着いた雰囲気があり、テーブルの配置も考えられており利用者が動きやすいよう配慮されている。玄関には庭で摘んだ季節の花が生けられていた。よしずを使い、外からの光を調整している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットと押入れが作り付けになっている。ベッドはホームが設置している。その他は、利用者が使い慣れた家具や机を持ち込み生活している。利用者の身体状況を考え、本人や家族と相談しながら居室作りを行っている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。